

第28章 地域編④：西部

1. 地域概要

(1) 概要

①西部地方のタイにおける経済的地位

西部はバンコク首都圏の西に位置する 6 県で構成され、スパンブリー県とサムットソングラム県以外の 4 県はミャンマーと接している。西部全域の名目 GDP（2020 年）は 5,633 億バーツであり、7 つに分けた地域区分の中で最も小さく、人口も 3,663 千人と 2 番目に少ない。

図表 28-1 タイ西部地方の位置



西部地方		
43	スパンブリー	Suphan Buri
45	カーンチャナブリー	Kanchanaburi
60	サムットソングラム	Samut Songkhram
61	ラーチャブリー	Ratchaburi
62	ペッチャブリー	Phetchaburi
63	ブラチュワブキーリーカン	Phachuap Khiri Khan

図表 28-2 西部地方概要

No	県名	(英語名)	名目GDP [2020年] (100万バーツ)	人口 [2020年] (1,000人)	1人あたりGDP [2020年] (バーツ)
	西部地方	Western	563,389	3,664	153,763
61	ラーチャブリー	Ratchaburi	180,496	812	222,261
45	カーンチャナブリー	Kanchanaburi	102,857	832	123,679
63	プラチュワプキーリーカン	Phachuap Khiri Khan (PK)	91,554	488	187,718
43	スパンブリー	Suphan Buri	89,628	852	105,238
62	ペッチャブリー	Phetchaburi	71,934	501	143,591
60	サムットソングラーム	Samut Songkhram	26,920	179	150,169

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

②工業団地・日系企業進出動向

ラーチャブリー県及びペッチャブリー県に工業団地がある。ラーチャブリー県のラーチャブリー工業団地には、乾燥食品の株式会社営洋やデニム生地のカイハラ株式会社等、食品製造や衣料品製造の日本企業が数社進出している。また、カーンチャナブリーからミャンマーのダウエーに向けた開発構想があり、将来的にはタイからミャンマー（ダウエー）経由でのインド、中東、アフリカ向け輸出の可能性が探られている。しかし、現状はミャンマー側の道路インフラやダウエーの港湾の整備が進んでいないことや、ミャンマーの政治的不安定さもあり不透明な状況である。

(2) 進出日系企業からみた事業・生活環境やコスト

①インフラ・物流

【道路】

バンコクから、日本政府が経済特区開発支援を表明したミャンマーのダウエーまでの道路がカーンチャナブリー県を通過して続いている（ミャンマー側の一部は未舗装）。また、バンコクからラーチャブリー県を通過し、ペッチャブリー県、プラチュワプキーリーカン県の東部を通過して、南部地方を通過しマレーシアへと続く国道4号線が通っている。道路は整備されており、バンコクと比べて渋滞は少ない。

②労働事情

【賃金】

2022年10月に最低賃金（日額）が改訂されている。

図表 28-3 西部地方の県別最低賃金

県名	最低賃金（日額、バーツ）
スパンブリー	340 バーツ
サムットソンクラーム、チャンタブリー、ナコンナーヨック	338 バーツ
ペッチャブリー、プラチュワプキーリーカン、カーンチャナブリー	335 バーツ
ラーチャブリ	332 バーツ

(出所) JETRO より作成

③生活環境

カーンチャナブリーは映画「戦場にかける橋」の舞台として有名な観光地であるが、工業団地は少なく、日本企業の進出もあまりない。駐在員としての生活環境は教育や医療面でのハードシップが高い。日本食のレストランは数件存在する程度である。

2. 主要工業団地

No.	工業団地名	所在地	総開発面積
1	Khao Yoi Industrial Park	Petchkasem Rd., Km 139, Tabkang, Khao Yoi, Petchaburi 76140	80 ha
2	Ratchaburi Industrial Estate (RIE)	110 Moo 9 Phetkasaem Highway Km. 90, Donsai, Protaram, Ratchaburi 70120	150 ha

(出所) BOI より作成